



街路樹



「道徳科の授業改善の視点と実践例紹介」



「特別支援教育の充実に向けて②」

学校を訪問をした際、先生方から「児童生徒の関心を高める導入の仕方が分からない。」との声をよく聞きます。

内容項目「規則の尊重」を例に導入場面を考えてみましょう。

- 1 「避難所で大切なことは何ですか。」と発問する。
- 2 「今日のテーマは『規則の尊重』です。」と話し、内容項目を板書する。
- 3 「今日の教材名は『苦しいときだからこそ』です。」と話し、教材名を板書する。
- 4 「では、『苦しいときだからこそ』を読みましょう。」

この導入の問題点は、「①授業の内容項目が見え透いている」「②この教材文を読んでみたいという意識が高まらないまま読んでいる」ことです。では、どのようにすれば、児童生徒の関心が高まる導入になるのでしょうか。そこで、次のような導入を考えてみます。

- 1 『はみんなが生きること』を提示する。
→「にはどのような言葉が入ると思いますか。」と発問する。
- 2 に「並ぶこと」と記入する。
→「『並ぶことはみんなが生きること』とはどういうことでしょうか。」と発問する。
- 3 「これから『苦しいときだからこそ』を読んでみましょう。」

教科書の会話文と教材名を活用することによって、教材文に興味をもたせることができます。

教科書の教材には、「教材名」「挿絵」「会話文」「地の文」と、様々な構成要素が含まれています。このような構成要素ごとに教材を分析し、本時の「ねらい」に迫る要素を活用することにより、関心が高まる導入ができます。教科書を効果的に活用して、児童生徒が「自分事」として考える授業にしていきたいと思います。

【出典：「苦しいときだからこそ」小学校道徳 読み物資料集（文部科学省）】

【鈴木健二著「中学校道徳ワンランク上の教科書活用術」（日本標準）を参考、一部を要約転載】

「これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会」共生社会の形成に向けては、インクルーシブ教育の考え方が大切だとされています。

この考え方のもとで特別支援教育を進めていくためには、「障がいのある子どもの教育の充実」という視点で捉えられがちであった特別支援教育の対象や見方を変えていくことが求められます。様々な多様性をもつ人間の「関わり合い方」の学びも大切な要素であり、特別支援教育の対象はすべての子どもたちであるという考え方です。

共生社会においては「支える人」と「支えられる人」という関係性ではなく、様々な人の能力が発揮されている状態の「支え合い」の関係性をつくることが重要です。子どもも大人も「支え合い」の視点での関わり合いができることが社会の構成員としての大切な資質となるのです。

関わり合う力は、机上で学ぶものではなく、関わり合いの経験の中でこそ培われるものです。したがって、学校教育においても、これをねらいとした学習経験を組み込んでいくことが大切です。特別支援学級の子どもたちが通常の学級で学ぶ交流学習等の場では、「一緒にできている」「差別がない」レベルから更に踏み込んで、個々のよさが発揮されている状態を理想としていきたいのです。

例えば、集団の学びの中で「変な考え」と見られていたものが、「だれも考えつかなかった考え」として認められたり、「わからない」という反応は「どうしたらわかりやすくなるのか」を検討するためのきっかけとして活かされていく。また、子どもたち個々の特性も、「こだわり」が『集中力・継続』に、「能力のアンバランスさ」が『特定領域の高い能力』にと、マイナス面に捉えられていたことがよさとして活かされていく、このようなイメージです。

共生社会は、待っていればやってくるものではありません。私たちの力で形成するものです。そこにつながる学びが広がり、各校での実践が共有されていくことができたら素晴らしいと考えています。

「教育研究発表会より」

令和 6 年 12 月 25 日（水）に総合教育センターや文化センター、体験型経済教育施設を会場に、令和 6 年度教育研究発表会が行われました。

第 1 部分科会では、6 つの教科部会と 2 つの教科外部会の調査研究委員から、それぞれの重点課題に基づいた 1 年次の研究実践の発表があり、参加した先生方を交えて、2 年次の研究の充実に向けた熱心な協議が行われました。



第 2 部全体会では、国立教育政策研究所総括研究官の千々布敏弥先生から「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた教師のリフレクション」と題して講演をいただきました。児童生徒の学力向上を支える教師の授業力の向上に向けて、学校の組織文化を再構築していくことが重要であることを学びました。

学校の組織文化を再構築していくために、「日々の授業のリフレクション」「教師のエージェンシー（主体性）の尊重と発揮」「同僚性の構築」など、多くのヒントをご教示いただきました。

参加した先生方からは「これまでの学校観、授業観、指導観をアップデートする機会だった。学校組織のエージェンシーを高めていきたい。」等の感想が寄せられました。

